

「ささえる力 Power」は、情熱と誇りをもって働く「人」にスポットをあて水資源機構の仕事を紹介するコーナーです。

継続は力なり

「仕事を通して成長できる組織だと感じています」

豊川用水は昭和43年に全面通水し、愛知県東三河地方の平野及び渥美半島全域、静岡県湖西市の地域に、農業用水、水道用水、工業用水を供給し続け、地域のライフラインとしての重要な役割を担っている。管理エリアが広範囲にわたるため、出先事務所も多く、職員数は115人と本社の次に大きな事務所である。受益面積は約18,000ha、調整池の総貯水容量は合計1,210万m³に及ぶ。宇連ダムや大島ダム、5つの頭首工、7つの調整池等の配水管理・施設の保守・財産の保全等の管理業務に加え、施設の老朽化等へ対応するために平成11年度からは豊川用水二期事業を実施しており、現在は大規模地震対策や石綿管除去工事等を行っている。本号では、調査設計課で奮闘している平成26年度新規採用職員の岡野さん取材した。

Profile

豊川用水総合事業部 調査設計課

岡野 佑亮 Yusuke Okano

平成26年4月、土木職として水資源機構に入社。

「初めての仕事…設計業務に奮闘中です。」

採用内定者対象の施設見学会で初めて豊川用水を訪れたという岡野さん。「渥美半島など広範囲に水を届けるために多くの施設を管理していて、あまりに大規模な事業で本当に驚きました。渥美半島の見わたす限りのキャベツ畑等を目にして『ここで使われる水を届けているんだ』と思ったら、この地域に欠かせない存在だと感じました。」落ち着いた穏やかな印象の岡野さんはそう振り返った。

「私の主な仕事は、新規工事のためのコンサル業務の発注…積算資料や設計書等の作成です。といっても、初めての作業ばかりで、先輩方に教えていただいていたばかりですが…」大学では農業土木を専攻し、水や



豊川用水概要図



土に関する研究や農業基盤整備について学んでいた彼にとって、「設計」は未知の世界であった。「積算資料の作成は、必要なものを細かく計上していかなければならないので、数字や資料との睨み合いも多く、工事の設計から施工までのイメージを上手くつなげられなくて…」入社して半年、まだまだ慣れない業務に奮闘しているようだ。

「建設業務を経験できる貴重な場所、頑張りどきです。」

調査設計課の職員は6名、岡野さんも着任と同時に大きな工事の担当を任された。悪戦苦闘しながら作成した設計資料を先輩職員に審査してもらったところ、多くの間違いを指摘され、「もう一度頑張っ！」と激励されたこともあった。「全然ダメでした…。当たり前ですよ、新入社員だからとかまったく関係ないですから。同じ失敗をしないよう、注意されたことは頭にたたき込んで、次へ生かせるように努力しています。」また、打ち合わせ等で迷惑をかけないように、専門辞書を常に持ち歩き、調べたら付箋を貼り、何度も調べることがないようにしているという。

「赴任前から忙しい事務所だと聞かされており不安でした。実際忙しいし(笑)。でも、色々な方から『建設業務を経験できる事務所は少ない。ここは大きな工事が経験できる貴重なチャンス』と言われ、モチベーションにつながっています。」そう話す岡野さんからは、経験が将来の力となると信じ、何事にも積極的に取り組む姿勢が伺えた。「小学生の施設見学の案内や、漏水で夜間に呼び出しをうけたこともあり。大変だというより、建設以外の業務にも携われることは、自分が社会人として、水のプロ集団の一員として、成長していくために貴重な経験だと感じています。」

仕事に一生懸命な岡野さんは言葉を続ける。「できればもっと現場や受益地の方と直接話をしたいです！」ゆくゆくは大学で学んだことも生かし、現場に出て土木の仕事にも携わりたいという。「でも今は、設計業務の知識をもっと身につけたいです。当然ですが、設計業務が完了しないと、工事が進まないんで



す。工事の工期も考えて、計画的に間違えずに進めなければいけません。プレッシャーですが、自分が設計したものが将来、水の安定供給につながると考えると、頑張らなければと感じます！」

「事務所のみなさんが、指導してくれます。」



職場環境を尋ねると、「課にかかわらず、事務所の先輩方の丁寧な指導や配慮のおかげで頑張れています。仕事を通して成長していける良い組織だと感じています。」とのこと。「現場を知らないままの図面だけの設計にならないよう、工事課の方が現場で声をかけてくれたり、安全パトロールに僕も随行させていただいたり…色々な仕事を経験させてもらっています。」彼の前向きな姿勢と先輩方の指導のお陰もあり、「分からないことが多いなりに、だんだんと事業全体のイメージがついてきたのを感じ、自分でもうれしい！」と、はにかんだ笑顔の岡野さん。

そんな彼の目標は…「今の上司が理想です！公私ともに面倒をみてもらい、本当に感謝しています。自分もいつかあんな風にアドバイス出来るようになりたいです。」その上司に岡野さんの仕事ぶりを聞いてみた。「岡野さんは黙々と、でも着実に進めてくれるので、大変助かっています。事業終盤の調査設計課で、人数も少ない中、重要な戦力になってくれますし、私の刺激にもなっています。調査設計課は、それぞれに自分の仕事をしていることが多いので、一人で抱え込まないように気にしているくらいですよ。」彼の頑張りや、日々気にしてくれる存在がいることは、本人にとっても心強いことだろう。

当初は控えめな印象を受けたが、その心には何事にもポジティブに取り組み、将来の目標と希望に満ちた志を感じ、機構の未来を担う若き職員の将来が楽しみな取材となった。



大学まで茨城県で過ごし、親元を離れて初めての寮生活を送る岡野さん。両親のありがたみを感じる日々とのこと。
「近々、農業研修で、受益地の方のもとで2週間ホームステイをさせていただきます。ユーザーさんの考え方や、実際に水をどのように使っているのか直接聞いてみたいです！」